

あいち生物多様性戦略推進委員会 議事録

1. 日時：2021年1月28日(木) 10:00~12:00

2. 場所：愛知県自治センター会議室 E 及び web 開催

3. 出席者：15名（うち、web参加 3名）

武田委員（委員長）、大東委員（副委員長）、福田委員（副委員長）、香坂委員、田中委員（web出席）、辻本委員（web出席）、夏原委員、福井委員、増田委員、斉藤委員、道家委員、柳原委員、林委員（代理：間宮氏（web出席））、坂口委員、鳥羽委員

4. 議事概要

(1) あいち生物多様性戦略 2030 の策定について

- ・資料 1、2、3、4 について事務局から説明を行った。

【香坂委員】

- ・OECM について、環境省では、企業林等が比較的想定されていると思う。ただ、OECM についてはまだ決まった定義はないので、記載は現状のままでも問題は無いかと思う。
- ・パブリックコメントの 54 番への回答について、大枠では国税の森林環境譲与税は、管理の行き届いていない私有林が対象であるのに対し、県税「あいち森と緑づくり税」はより広域的な公益的機能を維持するためのものかという整理かと思うので、あまり現在のような詳細な回答ではない方が逆に良いかもしれない。

【道家委員】

- ・p. 80 の「IUCN J（国際自然保護連合日本委員会）」表記を、「国際自然保護連合日本委員会（IUCN J）」と変更してほしい（正式名称と略称が逆）。
- ・パブリックコメントの 41 番、58 番で意見があった国際的な動きとの関連だが、国際自然保護連合日本委員会では、国際会合の後に報告会を開催することが多いので、今後連携する仕掛けができればと思う。
- ・県民のサポーターによる広報への協力について、最近よく見る「オープンソースキャンペーン（オープンソース広報）」を取り入れるのも一案かと思う。Twitter、インスタグラム、Facebook 等の SNS で自由にドキュメントや写真、バナーを使えるようにするなどが考えられる。検討の中身に意見することが難しい人でも、Twitter 等で動きを広める部分を担ってもらえるようになるとより充実するかと思う。

【田中委員】

- ・あいちミティゲーションを後退させるのではなく、この戦略の中に位置付けて推進する方向であってほしい。
- ・主流化という言葉は、国際社会では政策に生物多様性を組み込むという捉え方が一般的

で、地方公共団体であれば、条例やガイドラインに生物多様性を組み込むというのが基本的な捉え方かと思う。先日の県の説明では、戦略は県民・企業のためのものであるとのことだが、まずは地方政府である県の（政策の）ためのものであるべきだと思う。

- ・SDGs のウェディングケーキ図があるのは非常に良いと思う。その中で、生物圏が土台になっているという説明が一言あるとなお良いと思う。
- ・戦略と一口にビジョンになっている。ビジョンを実現するための、踏み込んだ制度、資金、インセンティブを示すものが本来の戦略であるべきだと思う。
- ・環境アセスメント制度との関係を示さなくて良いのか。日本ならではの状況があるのかもしれないが、保全と開発の関係が明確になった方が良いのかと思う。
- ・全体的には参考になる内容になっていると思う。
- ・作って終わりではなく、継続的に県民に普及啓発し、行動に転化していく仕組みがあるとより良い。

→【武田委員長】

- ・すぐに踏み込めないものもあるが、その手助けになるものであってほしいと思う。

【辻本委員】

- ・全体的には立派なものに仕上がったと思う。
- ・田中先生が言うように、戦略でありながら実現する仕組みがなく中途半端かもしれないが、これを片手に色々な戦略や政策を考えていくことが重要かと思う。あいちミティゲーションはその中心であり、愛知県の武器になるものだと思う。

【間宮氏】

- ・p. 49 グリーンインフラの説明に用いられているイメージ図は、河川改修など治水対策が主体と受け取られてしまうように思われる。公園や水辺などの活用や民間企業の取組、ヒートアイランド現象緩和等、都市部においても生物多様性保全の取組が重要としているので、県民が幅広く理解できるような記載にした方が良い。

【道家委員】

- ・地域ネットワーク協議会は宝のひとつと思う。その中で NGO、ユース等との連携を伸ばしていけると良いと思う。

【武田委員長】

- ・委員から意見のあったとおり、あいちミティゲーションをより一層進めていくべきということは皆さん同意されることと思う。ただ、現在の仕組みの中でうまくいっていない部分もあると思う。例えば開発者が早い段階で相談に来て、専門家の意見を聞けると良いと思うが、それを施策として実現するよう、まさに主流化を目指していければ良いと思う。
- ・地域協議会については、地域でまとまって活動できている一方で、閉鎖的になっているというパブリックコメントもあったので、地域の特色を持ちつつ、より参加者を増やし

ていく方向になると良い。

【増田委員】

- ・コラムの写真を適切なものにするにより良くなると思う。ヒガタアシ、ヒアリなどの写真が、見て県民が分かるような詳細なものであると県民の駆除活動の助けになるだろう。

→ **【武田委員長】**

- ・ホームページ等で見分け方を県民に紹介しても良いかもしれない。

【斉藤委員】

- ・全体的に見やすくまとまっている。
- ・概要版 p. 4 の絵の中で、重点プロジェクト J のプラットフォームは、本来、基盤整備であると思うので、基盤であるような記載にできると良いと思う。
- ・この戦略はゴールではなくスタートであり、プラットフォームを構築して県民にいかに関係情報を届けるかがこれから大切だと思う。

【柳原委員】

- ・非常によくできたものだと思う。
- ・生物多様性は一般の人にはわかりにくいと思うので、パンフレットの活用が重要であり、例えば外来種駆除がどうしても必要か、植林はどうしても必要かなど、そもそもの理由や原因が書かれているとより効果的だと思う。

→ **【武田委員長】**

- ・例えば外来種についてであれば、駆除活動の際に配られるパンフレット等もあるかと思うので、その中では丁寧な説明があるよう検討してほしい。

【坂口委員】

- ・国の戦略に先立って作成されたことに感謝したいと思う。国の戦略よりも図など多くて読みやすいのではないかな。
- ・主流化については、各主体の取組を指すものと考えているが、国の戦略策定の中でも各省の戦略に生物多様性や環境をいかに位置付けていくかが重要と改めて認識した。
- ・OECM については香坂先生に指摘があったように、国としては企業林をターゲットとし、SDGs の達成も含めて企業をどう巻き込むかが鍵になっていると思うので、企業の持っている土地について書き加えてもよいかなと思う。

【鳥羽委員】

- ・前回会議での意見やパブリックコメントに真摯に対応していて、具体的な計画になったと思う。
- ・主流化のため、市町村を巻き込んで勉強会を開催する等のリーダーシップを県には発揮してほしい。

【福井委員】

- ・気候変動、防災等も主流化が言われているが、それらと生物多様性の主流化がどう関わるのか県民にわかると良い。気候変動と生物多様性との関わりは、気温上昇だけでなく近年降水量が大きく変わっていることに触れてほしい。さらには気候変動対策との相乗効果（生態系サービスをどう活用すると気候変動対応策、防災と繋がるのか等）をパンフレットでも良いのでわかり易く書かれていると良い。
- ・また本編 p. 13 にはコロナウイルスのことが書かれているが、最近言われているキーワードである「One Health（ワンヘルス）」を入れてほしい。アニマルヘルス、人間のヘルス、そして環境の健全性は一体であって、その中にはウイルスも含まれており、それらの多様性が失われることで、感染症への適応能力が重なってきたということも分かり易く書いてほしい。パンフレットでもよいと思うので、気づきを与える内容であってほしいと思う。

→ **【武田委員長】**

- ・気候変動については本編には書いてあったが、概要版に簡単に入れても良いかと思う。
- ・コロナウイルスについてははまだデータが不十分な気もするが、判断は事務局に任せたい。

【福田委員】

- ・ p. 65 に記載されている資金活用の拡大はどういう意味だろうか。

→ **【愛知県】**

- ・クラウドファンディング等、お金を集める仕組みを拡大するという意味である。

【福田委員】

- ・NPO等が使い易い資金であることが重要。その説明を追加できるか検討してほしい。
- ・協議会については、p. 115 のコラムか p. 51 で、協議会との連携をもって市町村の戦略策定を進めていく、という内容を入れてほしい。

→ **【愛知県】**

- ・ p. 115 に追記したい。

【福田委員】

- ・今後、ミティゲーション検討委員会は今後どのようになるのだろうか。

→ **【愛知県】**

- ・任期は来年度までであるので、それまでに検討したい。このままの形か、あるいは主流化の方に形を変える可能性もある。

【大東委員】

- ・非常に立派な戦略ができた。
- ・この戦略を実行に移す際の中心となる協議会と、パンフレットで示された個人の活動の間には、協議会メンバーのNPOや企業等の団体があると思うが、それらの団体等の活動の指針を示して情報発信していければさらに県民の認識が広がっていくと思う。

- ・ p. 53 のコラムに記載されている「命をつなぐ PROJECT」が昨年度の内閣総理大臣賞を受賞したことを記載できれば県民のモチベーションになるかと思う。
- ・ 協議会の情報発信が弱いという意見がある。EcoReco（「命をつなぐ PROJECT」の情報発信サイト）では学生が YouTube で行動を発信している。他の委員の意見にあったインスタグラムや Facebook を合わせて、情報発信を県が支援する仕組みができればいいなと思う。

→ 【武田委員長】

- ・ ユースの活動との連携は、より進められると良いと思う。

【夏原委員】

- ・ パンフレットの p. 9 「メダカや水草を育てる」に「愛知県産の」を追記してほしい。
- ・ パンフレットは非常に読みやすい内容なので、ぜひ外国語版も作ってほしい。
- ・ これからの 10 年間で、レッドデータ記載種を減らす取組みを進めてほしい。増やせる種は増やして、トキやコウノトリのように野生復帰させる等の取組みを協議会とも連携して進められないかと思っている。

【香坂委員】

- ・ 国家戦略が具体的に固まっていない中、 p. 138 以降のような数値目標が示され、また市町村の戦略についての内容も盛り込んでいる点は、他の自治体にとっても非常に参考になると思う。
- ・ サブナショナルな取組みとしてエディンバラプロセスが推進しているとのことで、愛知県としても今回の戦略を発表する等してプレゼンスを高めていってほしい。
- ・ ワンヘルスは p. 13 で言及されていても良いかと思う。人獣共通感染症のスピルオーバーについてのデータの蓄積は確かに不確実性があるが、2004 年、ニューヨーク・マンハッタンでの会議以来、年数も経っているのでコンセプトの紹介としてはあっても良いと思う。

【田中委員】

- ・ 日本では気候変動と生物多様性が別に扱われており、特に気候変動が生物多様性に与える影響の方だけ書かれているが、生態系の多様性が失われることで気候変動に影響を与えるという逆方向の影響もある。自然の生態系を守ることが気候変動の緩和に繋がりを、それがミティゲーションを推進する根拠のひとつにもなるという説明があっても良いと思う。

【武田委員長】

- ・ 全体として、基本的にはこの方向性でまとめることで了解を得られたと思う。後の修正等は事務局に任せたい。

(2) その他

- ・事務局より参考資料の説明

以上